日本遺産
Japan Heritage

地域の歴史的魅力や特色を通じて
日本の文化・伝統を語るストーリーとして
国が100編の認定を目指しています。

申請タイトル　2017年4月28日 日本遺産 認定

播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道
～資源大国日本の記憶をたどる73kmの轍～

兵庫県朝来市　［連名申請］ 姫路市 福崎町 市川町 神河町 養父市

兵庫県中央部の播但地域。そこに姫路・飾磨港から生野鉱山へと南北一直線に貫く道があります、“銀の馬車道”です。さらに明延鉱山へと“鉱石の道”が続きます。わが国屈指の鉱山群をめざす全長73ｋｍのこの道は、明治の面影を残す宿場町を経て鉱山まちへ、さらに歩を進めると各鉱山の静謐とした坑道にたどり着きます。近代化の始発点にして、この道の終着点となる鉱山群へと向かう旅は、鉱山まちが放ついぶし銀の景観と生活の今昔に触れることができ、鉱物資源大国日本の記憶へといざないます。

現代につながる「ものづくり」の原点に触れる

時代は明治 世界との出会いから近代化へ 鉱山が生んだ2つの「道」

鎖国により貿易や海外との交通を制限したことで、日本は世界にあらゆる分野で大きな遅れをとりました。明治政府は産業技術で世界に追いつくため、近代化を先導する模範鉱山として、生野を西洋の技術を導入した日本初の官営鉱山としました。動力の機械化、火薬による採掘、それに耐えられる坑道、水銀を使った製錬など、全ての技術が当時の日本人が初めて出会う体験でした。

鉱山開発には、鉱山自体の技術革新はもちろん、船で運ばれる機械や物資の運搬、また採掘した鉱石を港までなるべく最短で運ぶことが必要でした。

鉱山開発のためには「銀の馬車道」・「鉱石の道」という全長73kmの道が必要となりました。今回認定された日本遺産のストーリーは、2つの「道」を中心に、手作業から機械化へと変わる現代まで続く「ものづくり」の大きな変革の時代に触れる物語です。

新時代を切り開くため、世界へ追いつくために、一歩を踏み出す鉱山開発

2つの「道」の物語　日本遺産 認定！

日本初の高速産業道路「銀の馬車道」

日本初の高速産業道路と言われる「銀の馬車道」は、明治9年播磨の飾磨港（現姫路港）と49km北の生野鉱山とを結ぶために造られました。道の起点となる飾磨港周辺には、生野産のレンガで作られた「飾磨津物揚場」跡があり、船で運ばれた機械や物資を生野へ、また掘り出した鉱石を飾磨港へ運ぶための道でした。建設ルートは最短・平坦を選び取り、重い鉱石に耐え得る画期的な構造を持った馬車専用道でした。前例もマニュアルもない、日本初の「舗装」された道をつくることはその当時、想像を絶する一大プロジェクトでした。

銀の馬車道
GIN no BASHAMICHI

近代日本 鉱山開発の軌跡「鉱石の道」

生野から北へ24kmとつづく「鉱石の道」。風格ある日本最古の全鋳鉄製の橋を過ぎ、東洋一の規模を誇った神子畑選鉱場にたどり着きます。さらにその先は明延鉱山。総延長550kmにもおよぶ坑道から鉱石を運び出すトロッコ軌道をめぐらせ、地下1,000mの奥底へとつながっています。先端技術を取り入れた、レールがつくる「鉄の道」は、鉱山採掘に目覚ましい「スピード」をもたらしました。

神子畑と明延間には、鉱石と人を運んだ「明神電車」が走っていました。運賃が1円だったことから「一円電車」と親しまれ、今に姿を残しています。

Industrial Heritage Open-air Museum
鉱石の道
産・業・遺・産
明延・神子畑・生野

鉱石の道 3大鉱山遺構 No.1 生野鉱山
日本近代の原点

銀山隆盛の歴史を今に伝えるおよそ1kmの観光坑道。江戸時代の生々しいノミの手掘り跡が残り、明治期以降の近代的な採掘作業の様子などを坑道内で再現しています。かつての、エレベーターの巨大な捲揚ドラムは圧巻。

〈住所〉生野町小野33-5 〈電話〉079-679-2010 〈HP〉ikuno-ginzan.co.jp
〈営業〉（4月~10月）9：10～17：20　（11月）9：10～16：50
（12月~2月）9：40～16：20　（3月）9：40～16：50
〈休業〉12月～2月の火（祝日の場合は翌日） / 年末年始

鉱石の道 3大鉱山遺構 No.2 神子畑選鉱場跡
東洋一の規模 24時間稼働した「不夜城」

神子畑鉱山が明治終期に閉山し、大正8年から明延鉱山の鉱石を選鉱する「神子畑選鉱場」に生まれ変わりました。昭和62年、明延鉱山の閉山とともに操業を停止し、平成16年に老朽化した建物が取り壊され、現在はコンクリートの基礎のみが残っています。

〈住所〉佐嚢1842-1 〈電話〉079-666-8002 〈HP〉mikobata.com

鉱石の道神子畑交流館　神選
〈開館〉10：00～17：00 〈休館〉水（祝日の場合は翌日） 年末年始の観光ガイドは要予約

鉱石の道 3大鉱山遺構 No.3 明延鉱山
近代日本をけん引した錫鉱山

明延鉱山は昭和時代には全国生産の約90％の錫を採掘する鉱山として繁栄しました。現在も明延鉱山探検坑道が公開されており、ガイドと共に約650mの観光坑道を見学することができます。鉱山町には鉱山社宅、公衆浴場、映画館跡など、鉱山関係者が生活した町並みが残っています。

〈住所〉養父市大屋町明延 〈電話〉079-668-0258 〈HP〉akenobe-kozan.com
〈営業 / 受付〉 平日8：30 ～ 17：15 ● 見学3日前までに予約が必要
〈休業〉土・日・祝日・年末年始 （ご利用がない場合）

会場案内図

【開催期間】 2022年9月23日〈金・祝〉～25日〈日〉
【時間】 10:00～15:00
主催：銀谷祭り実行委員会　共催：朝来市観光協会生野支部　後援：朝来市

銀谷祭り 生野銀谷（かなや）まち歩きスタンプラリー

生野町内5か所に設置されているスタンプを集めて豪華な景品をもらおう♪

但陽美術館
甲社宅・志村商記念館
生野まちづくり工房 井筒屋
生野銀山
口銀谷銀山町ミュージアム

5つ揃えたら 生野駅内「朝来市観光情報センター」か「生野クラブ」へ行こう！

ふりがな
氏名
住所
〒
電話

すべてのスタンプが集まれば生野駅内「朝来市観光情報センター」もしくは「生野クラブ」にて確認を行いますのでお越しください。また、郵送で提出される場合は、スタンプの台紙部分と必要事項明記の上、9/30 必着にて朝来市生野支所までお送りください。

当選発表は、当選者への賞品の発送をもって発表と代えさせていただきます。